

# 平成29年度病害虫発生予察情報

## 特殊報第1号

平成29年9月15日  
発表：福島県病害虫防除所

病害虫名 和名：ブドウミタマバエ（仮称）（ハエ目：タマバエ科）  
学名：*Asphondylia* sp.  
寄生植物名 ブドウ

### 1 発生経過

- 平成24年7月、平成26年6月に伊達市の露地栽培ブドウ「瀬戸ジャイアンツ」、「ベニバラード」、「紅環（べにたまき）」の3品種において、奇形果粒中にハエ目幼虫を確認した。幼虫を羽化させ、幼虫と成虫を湯川淳一博士（九州大学名誉教授）に送付したところ、未記載のブドウミタマバエ *Asphondylia* sp. であることが判明した。
- これまでに発生が確認された地域、品種は表1のとおりである。

表1 県内におけるブドウミタマバエの発生確認の経過

年	市町村	品種
平成24年	伊達市	瀬戸ジャイアンツ、ベニバラード
	伊達市	瀬戸ジャイアンツ、紅環
平成26年	喜多方市	シャインマスカット、スチューベン
	伊達市	瀬戸ジャイアンツ
平成28年	喜多方市	ノースレッド
	伊達市	瀬戸ジャイアンツ、紅環、カッタクルガン
平成29年	郡山市	クイーンニーナ

### 2 形態及び生態

- 幼虫は3齢を経る。3齢幼虫（終齢）は黄白色で、1.2~2mmの大きさである（図1）。幼虫は果粒中心の隙間に生息しており、その付近の果肉表面が褐色に変色しているが、果肉の食害は認められない。
- 蛹は体長2.5mm程度、褐色で果粒中に見られ、果粒表面に穴をあけて体を半分果粒外に出して羽化し、蛹殻は果粒表面に残る（図2、図3）。
- 成虫は雄翅長2.5~3.3mm、雌翅長は3~3.5mmの大きさであり、発生時期は6~8月である（図4）。
- 産卵は開花期に果粒（子房）中にされると考えられる。幼虫は果粒中に1頭ずつ寄生し、寄生された果粒は異常肥大し奇形化するが（図5）、その後肥大が止まるため、正常果粒の肥大に伴って目立たなくなる（図6）。この奇形果粒形成時期はブドウ開花後の6月中旬以降である。
- 本種の詳しい生活史は不明であり、現在、調査中である。なお、既知近縁種のノブドウミタマバエは年に2~3回発生し、冬寄主としてタニウツギの芽を利用し虫こぶを形成する。

### 3 発生状況

- 本種の発生は、現在のところ伊達市と喜多方市、郡山市の3か所であり、発生ほ場はいずれも山間・山沿いに位置している。生産者に対する聞き取り調査を行ったところ、発生の多い品種においては5%程度の寄生房率、1房あたり多いと10粒以上の寄生が見られる場合もあるが、被害は限定的である。また、郡山市のほ場を調査したところ、寄生房率は5%程度で、被害はほ場全体に偏りなく見られた。
- 本種による被害の発生は、現在のところ「瀬戸ジャイアンツ」、「ベニバラード」、「紅環」、「シャインマスカット」、「スチューベン」、「ノースレッド」、「カッタクルガン」、「クイーンニーナ」の8品種である。

#### 4 当面の対策

- (1) 開花後の6月中旬頃に寄生果粒・果房を除去し、水漬けするなど適切に処分する。この時期以降は正常果粒の肥大が進み、寄生果粒との区別が困難となるため、適期を逃さないように注意する。
- (2) 寄生が確認された品種以外にも本種が寄生するおそれがあるので、果房をよく観察し、疑わしい果房は適切に処分する。



図1 ブドウミタマバエ3 齢幼虫



図2 ブドウミタマバエ蛹



図3 ブドウミタマバエ蛹殻



図4 ブドウミタマバエ成虫

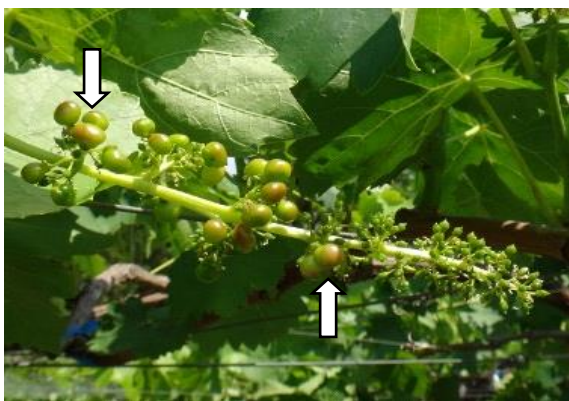


図5 異常肥大した寄生果粒  
(「瀬戸ジャイアンツ」)

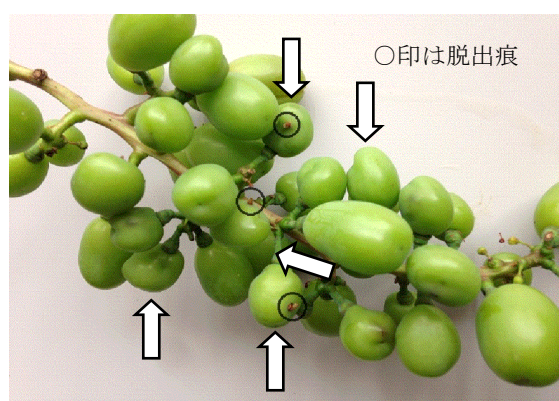


図6 肥大が止まった寄生果粒  
(「シャインマスカット」)

病害虫発生予察情報ホームページにも掲載されています。 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>  
問い合わせ先：福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）  
TEL：024-958-1709 FAX：024-958-1727 e-mail：yosatsu@pref.fukushima.lg.jp